

平成24年度
武田学園 事業報告書



まよらかに、源と

学校法人 武田学園

平成24（2012）年度 武田学園事業報告書

目次

I. 法人の概要	1
1. 武田学園の教育	1
2. 沿革	2
3. 設置校及び所在地	3
4. 役員	3
5. 学生数	4
6. 教職員数	4
7. 組織概要	5
II. 事業の概要	6
1. 学部学科の設置	6
2. 認証評価	6
3. 教育研究活動	6
4. 国際交流	11
5. 社会貢献・地域貢献活動	12
6. 学生支援サービス	13
7. キャンパス整備	13
8. キャリア形成と卒業生の進路・就職状況	14
III. 財務の概要	20
1. 財産目録	20
2. 貸借対照表	21
3. 収支計算書	23
4. 監事の監査報告書	28

I. 法人の概要

1. 武田学園の教育

建学の精神

第二次大戦後の混乱の時代に、故武田ミキは日本の再建のためには「真実に徹した堅実なる女性」の育成こそが急務であると強く感じ、永年の女子教育の経験を生かし、不動の信念と堅い決意をもって、昭和 23 年に本学園を創立しました。

日本女性の持つ伝統的な礼節・慈愛・勤勉という特性を高揚・伸長し、社会風潮に流されることなく、正しく 強く 明るく 生きぬく女性を育成すること、これが本学園の建学の精神です。

学園訓

- 一、真理を究め正義に生き勤労を愛する人になりましょう。
- 一、責任感の強い逞しい実践力のある人になりましょう。
- 一、謙虚で優雅な人になりましょう。

教育方針

学園は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、建学の精神及び「心を育て 人を育てる」という建学の理念に則り、現代社会を支える学問の基礎・基本となる教養と時代の変化・発展に対応できる専門的学問を教授研究し、深い知識と高い識見と豊かな人間性を養い、もって社会の要請に答え得る人間の育成を目的とします。

教育目標

学園は、その理念・目的を踏まえつつ、それぞれの専門的な立場から「正しい判断力とたくましい実践力を身につけた」人材の養成を目指しています。

2. 沿 革

- 昭和 23(1948)年 広島県可部女子専門学校設立
- 昭和 27(1952)年 私立学校法第 31 条による学校法人「武田学園」設立認可
- 昭和 32(1957)年 広島県可部女子高等学校（全日制家政科）開校
- 昭和 37(1962)年 可部女子短期大学（被服科）開校
広島県可部女子高等学校を可部女子短期大学附属高等学校と改称
可部女子短期大学附属高等学校に全日制普通科を設置
- 昭和 39(1964)年 可部女子短期大学に食物栄養科開設
- 昭和 40(1965)年 可部女子短期大学に国文科、英文科開設
- 昭和 41(1966)年 広島文教女子大学開学、文学部（国文学科、英文学科）
可部女子短期大学を広島文教女子大学短期大学部と改称
可部女子短期大学附属高等学校を広島文教女子大学附属高等学校と改称
- 昭和 45(1970)年 広島文教女子大学短期大学部に幼児教育学科開設
- 昭和 46(1971)年 広島文教女子大学附属幼稚園開園
- 昭和 56(1981)年 広島文教女子大学文学部に初等教育学科開設
- 昭和 60(1985)年 大韓民国全州教育大学と国際交流協定締結
- 昭和 61(1986)年 広島文教女子大学大学院（文学研究科修士課程）開設
- 昭和 62(1987)年 広島文教女子大学大学院文学研究科に教育学専攻開設
- 昭和 63(1988)年 中華人民共和国大連外国語学院と国際交流協定締結
- 平成 5(1993)年 広島文教女子大学大学院文学研究科に英米文学専攻開設
アメリカ合衆国オハイオ州立ケンツ大学と姉妹校の協定締結
- 平成 6 (1994)年 広島文教女子大学短期大学部幼児教育学科学生募集停止
- 平成 8 (1996)年 広島文教女子大学短期大学部専攻科栄養専攻開設
広島文教女子大学短期大学部幼児教育学科を廃止
- 平成 12(2000)年 広島文教女子大学の文学部国文学科、英文学科学生募集停止
広島文教女子大学短期大学部国文学科、英文学科学生募集停止
広島文教女子大学の「文学部」を「人間科学部」と名称変更
広島文教女子大学人間科学部に人間言語学科、人間文化学科、人間福祉学科開設
- 平成 13(2001)年 広島文教女子大学短期大学部英文学科廃止
- 平成 14(2002)年 広島文教女子大学短期大学部生活科学科、食物栄養学科学生募集停止
広島文教女子大学人間科学部に心理学科、人間栄養学科開設
広島文教女子大学短期大学部国文学科廃止
- 平成 15(2003)年 広島文教女子大学短期大学部生活科学科廃止

- 平成 16(2004)年 広島文教女子大学人間科学部人間文化学科学生募集停止
 広島文教女子大学文学部国文学科廃止
- 平成 17(2005)年 広島文教女子大学大学院文学研究科の名称を「人間科学研究科」と名称変更
 広島文教女子大学短期大学部専攻科栄養専攻廃止
 広島文教女子大学短期大学部閉校
- 平成 18(2006)年 広島文教女子大学文学部英文学科廃止
 広島文教女子大学大学院人間科学研究科国語学国文学専攻、英米文学専攻廃止
- 平成 19(2007)年 広島文教女子大学大学院人間科学研究科人間福祉学専攻設置認可
- 平成 20(2008)年 広島文教女子大学大学院人間科学研究科人間福祉学専攻開設
- 平成 21(2009)年 広島文教女子大学人間科学部人間言語学科の学生募集を停止
- 平成 22(2010)年 広島文教女子大学人間科学部にグローバルコミュニケーション学科開設

3. 設置校及び所在地

- <大 学> 広島文教女子大学（広島市安佐北区可部東 1-2-1）
 人間科学部（人間言語学科、初等教育学科、人間福祉学科、心理学科、人間栄養学科、グローバルコミュニケーション学科）
- <大 学 院> 広島文教女子大学大学院（広島市安佐北区可部東 1-2-1）
 人間科学研究科（教育学専攻、人間福祉学専攻）
- <高 等 学 校> 広島文教女子大学附属高等学校（広島市安佐北区可部東 1-2-3）
 全日制課程普通科
- <幼 稚 園> 広島文教女子大学附属幼稚園（広島市安佐北区可部東 1-1-15）

4. 役員

（平成 25 年 4 月 1 日現在、理事定数 11 名、現員 11 名、監事定数 2 名、現員 2 名）

理事（理事長兼学園統括部長）	武田 義輝	理事（非常勤）	大越 藤夫
理事（学長）	角重 始	理事（非常勤）	児玉 裕志
理事（校長）	石井 宏佳	理事（非常勤）	田中 豊實
理事（園長）	井丸 義之	理事（非常勤）	大内 良治
理事（学園長）	武田 哲司	理事（非常勤）	栗屋 充博
理事（非常勤）	桑原 正彦	監事（非常勤）	友廣 和有
監事（非常勤）	久保田宏温		

5. 学生数

大学等における3年間の在籍状況は、次表のとおりです。 (各年度5月1日現在)

区 分	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度		
	現員	収容 定員	充足率	現員	収容 定員	充足率	現員	収容 定員	充足率
広島文教女子大学	1,228	1,676	0.73	1,256	1,671	0.75	1,291	1666	0.77
大 学 院	23	36	0.64	13	36	0.36	10	36	0.28
人 間 科 学 部	1,205	1,640	0.73	1,243	1,635	0.76	1,281	1630	0.78
人 間 言 語 学 科	49	160	0.31	25	80	0.31	2	--	-
グローバルコミュニケーション 学 科	50	140	0.36	74	215	0.34	105	290	0.36
初 等 教 育 学 科	466	320	1.46	482	320	1.50	500	340	1.47
人 間 福 祉 学 科	182	440	0.41	195	440	0.44	204	420	0.48
心 理 学 科	149	300	0.50	150	300	0.50	152	300	0.50
人 間 栄 養 学 科	309	280	1.10	317	280	1.13	318	280	1.13
広島文教女子大学 附 属 高 等 学 校	549	480	1.14	538	480	1.12	566	480	1.17
広島文教女子大学 附 属 幼 稚 園	103	160	0.64	109	160	0.68	144	160	0.90
計	1,880	2,316	0.81	1,903	2,311	0.82	2001	2306	0.87

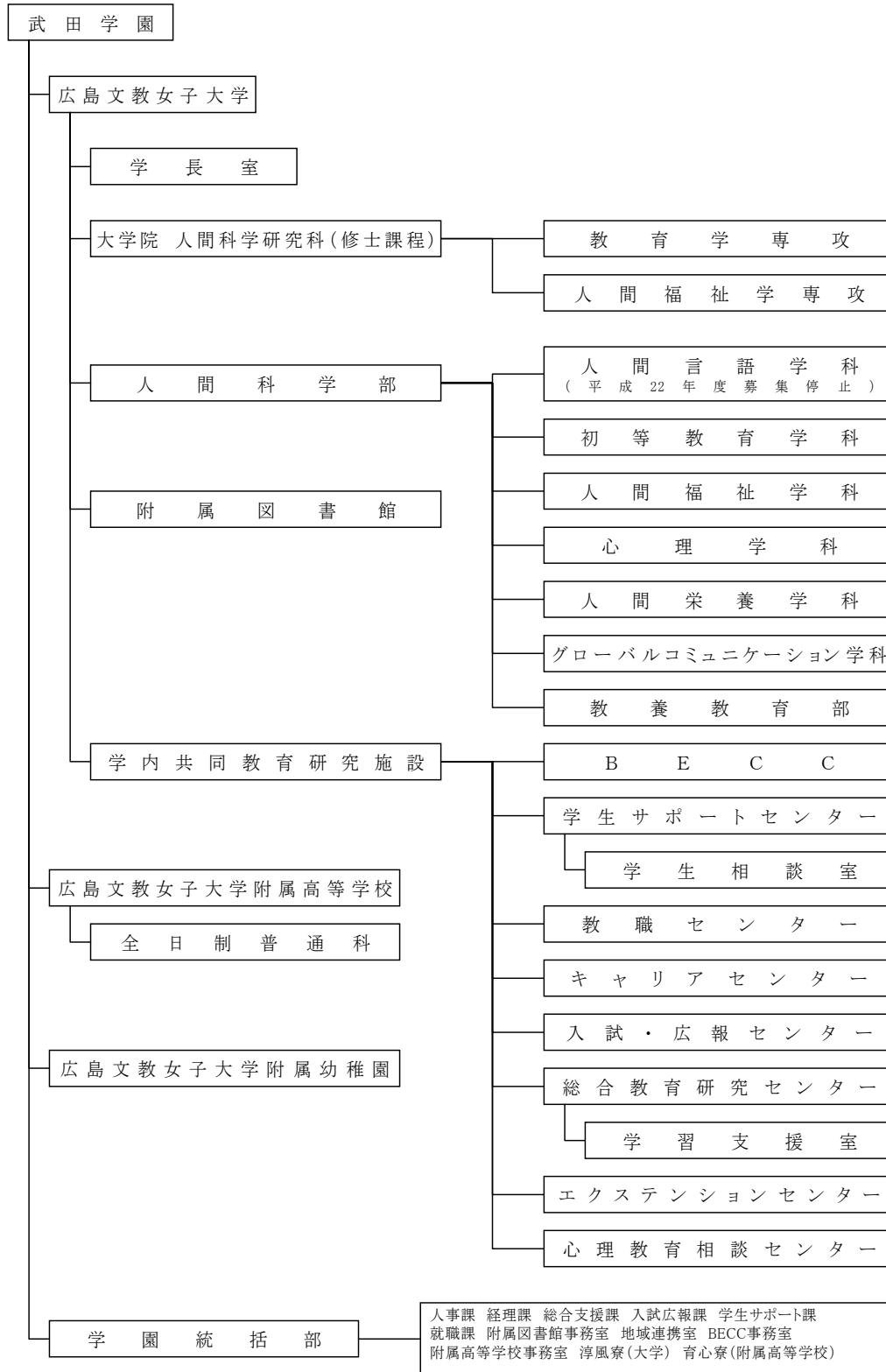
6. 教職員数

(各年度5月1日現在)

区 分	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度		
	専 任 教 育 職 員	非 常 勤 教 育 職 員	専 任 事 務 職 員	専 任 教 育 職 員	非 常 勤 教 育 職 員	専 任 事 務 職 員	専 任 教 育 職 員	非 常 勤 教 育 職 員	専 任 事 務 職 員
広島文教女子大学	93	116	42	93	122	45	92	128	46
附 属 高 等 学 校	34	19	2	37	17	2	38	18	3
附 属 幼 稚 園	7	7	1	7	8	1	10	5	1
計	134	142	46	137	147	48	140	151	50

7. 組織概要 (平成 25 年 4 月 1 日現在)

法人組織及び設置する各学校の組織は、次のとおりです。



II 事業の概要

1. 学部学科の設置

(1) 学部学科の整備

平成 19 年度新規教育事業として、人間福祉学科に介護福祉士養成コース定員（20 名）の設置認可を申請し、平成 19 年 3 月 7 日付け、文部科学大臣及び厚生労働大臣の連名による指定書を受け取り、平成 19 年 4 月 1 日開設しました。

(2) 学部学科の設置

文部科学省に平成 21 年 6 月 26 日付け届け出た「広島文教女子大学人間科学部グローバルコミュニケーション学科設置届出書」を、平成 21 年 8 月 31 日付け受理（平成 21 年 6 月分）され、平成 22 年 4 月 1 日付けで広島文教女子大学人間科学部グローバルコミュニケーション学科の開設が認められました。

(3) 大学院の改組

平成 17 年度に大学院人間科学研究科教育学専攻の入学定員を 15 名に改訂するとともに、国語学国文学専攻入学定員 5 名及び英米文学専攻入学定員 5 名の学生募集を停止し、平成 18 年度末をもって国語学国文学専攻及び英米文学専攻を廃止した。

平成 19 年 12 月 3 日付けで大学院人間科学研究科人間福祉学専攻入学定員 3 名の文部科学大臣認可書を受け取り、平成 20 年 4 月 1 日開設しました。

(4) 学科入学定員の変更

平成 25 年度より、初等教育学科と人間福祉学科の入学定員の変更を行いました。（初等教育学科 80 名→100 名、人間福祉学科 100 名→80 名）

2. 認証評価

広島文教女子大学は、平成 24 年 10 月、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、平成 19 年に続いて「大学評価基準に適合している。」と平成 25 年 3 月 12 日付けで認定されました。

3. 教育研究活動

(1) 広島文教女子大学

① 大学ミッション

ア. 広島文教女子大学は、謙虚で優雅な人間性を育むとともに、やさしくあたたかい心で他者を思いやることのできる人を育成します。

イ. 広島文教女子大学は、正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人を育成します。

ウ. 広島文教女子大学は、地域とともに成長しつづける大学をめざします。

② 教育活動

カリキュラム改革により、導入教育「大学生活概論」「教養演習」を改編・新設すると共に一般教育科目の再編、専門教育科目の継続的な見直しを行い、より適切

な教育課程の実現に努めています。さらに、特色ある教育内容・方法として、教育理念及び育成すべき人材像を示し、建学の精神・教育理念を周知させる科目「人間科学入門」、社会で生きることを考えさせる科目「人生論」などを設けて、独自の教育の基礎としています。

平成 20 年度より、神田外語大学との連携による BECC 「英語コミュニケーション総合学習施設」を導入・設置しました。

③ 研究活動

教学系組織の再編に伴い、学内の組織・研究体制に大幅な改革を実施し、効果的に運営するため、努力しています。また、平成 17 年度から「教育・研究活動支援プログラム助成金制度」を設け、「学内版科学研究費助成」「学内版特色 G P 助成」「出版助成金」を置くなどして、研究助成と教育研究活動の連携を図りつつ、教育研究活動の活性化を図る体制を整備しています。

さらに、平成 19 年度から教員の研究活動の充実を図るため、研究費の支援や授業及び校務の軽減を図る等の研究支援制度を設け教員の研究活動の士気を鼓舞しています。

(2) 広島文教女子大学附属高等学校

① 高等学校ミッション（目指す生徒像）

ア. 豊かな心を持ち誠実さにあふれた生徒を育成します。

イ. 学ぶことに価値を見出し、より高い目標に挑戦する生徒を育成します。

ウ. さまざまな課題や状況に応じて、最もふさわしい判断と行動ができる生徒を育成します。

② 教育方針

ア. 建学の精神に基づいた心の教育の推進

知識と知恵に裏付けされたしなやかな知性を持ち、誠実さにあふれた生徒を育成します。

イ. 学力の向上と進路指導

自らが学ぶことに価値を見出し、自学・自習ができ、より高い目標に挑戦する生徒を育成します。

ウ. 女性として自立できる教育の実践

さまざまな課題や状況に応じたスピーディかつ的確な判断のもとに、コミュニケーション力を発揮し、リーダーシップのとれる逞しい生徒を育成します。

③ 教育実践

ア. 育心育人教育の推進

人に関わるすべての場面で、他者への「敬意」を念頭に置いた振る舞いのできる生徒を育成します。その表れの一つに、その場にふさわしい「あいさつ」ができることを目指します。具体的には、状況に応じて「立ち止って」品位ある

あいさつができる生徒を育成します。

イ. ソシオ活動・課外活動・特別活動を強力に推進し、成功体験や失敗体験を重ねることによって、生徒一人ひとりの知恵を育むと同時に、人と自由に関わる喜びを感じることができる生徒の育成を目指します。

ウ. 環境保護に関心をもたせ、それを実践できる生徒を育成します。

エ. 教師全員が **Team** として個々の生徒に関わり、あらゆる教育現場（授業、HR、行事、クラブ等）において心を鍛える教育を行います。

④ 進路実現をめざす学力向上への取り組み

ア. キャリア教育を推進し、社会の仕組みを理解させる中で、生徒自身が将来活躍すべき場所を明確に意識できることを目指します。

イ. 生徒の進路目標が実現できるよう **BFW** と **BLC** を強力に推進し、自学自習ができる生徒を育成します。

ウ. 明確な将来展望を基盤にして豊富な知識を習得させ、国公立大学をはじめ難関私立大学への進路実現をめざした学力向上に取り組みます。

エ. 高大連携を強化し、広島文教女子大学との継続的な教育活動をも展開します。

オ. **BEC C** の活用、海外語学研修修学旅行、留学生との交流等をとおして、積極的に英語を活用していく態度を育て、英語力の向上を図ります。

カ. 各教科の教職員が **FD** 活動を推進し、**Team** として生徒全員の教科学力の向上を図ります。

⑤ 女性として自立できる教育の実践（「文教フロンティアスピリット：BFS」の推進）

ア. 学園創設者 武田ミキ先生の教育理念を継承し、情熱と愛情に満ち溢れた「逞しい前姿」を見せる教育を実践します。

イ. 知性的で自立した女性を育てるために、「**BFS**（文教フロンティアスピリット）」活動をさらに発展させ、豊かなコミュニケーション能力と強いリーダーシップを養う教育を推進します。

(3) 広島文教女子大学附属幼稚園

① 幼稚園ミッション

心と身体にひびく体験を通して「元気いっぱい笑顔いっぱい」の子どもらしい子どもを育てています。

② 教育目標

「心豊かで 社会性に富み 自立した子ども」を育てる

③ 教育方針

建学の精神である「心を育て 人を育てる」を柱として、一人ひとりの園児への個別的な配慮のもと、「一人で できた」という体験を積み重ねることにより自立を促し、3つの心「元気な心」「強い心」「やさしい心」

を育てています。

3つの心とは

元気な心

- 夢中になって遊び、みんなと喜びを分かち合える子ども
(全身を使って、仲間と楽しみ、進んで遊びに入っている)
- 笑顔であいさつできる明るい子ども
登園、降園の時の挨拶や、人にあった時の挨拶などが自然にできる)

強い心

- きまりがわかり、我慢強くがんばる子ども
(ありがとう、ごめんなさい、の言葉が素直に言える)
- たくさんの興味や好奇心を持てる子ども
(経験の中から興味、関心を持てるようになる)

やさしい心

- 友だちを思いやり、みんなと仲良くできる子ども
(他者の痛みや喜びに共感できるようになる)
- 自分の気持ちや思い、感じたことを素直に表現できる子ども
(喜びや、悲しみ、などの喜怒哀楽を伝えることができるようになる)

④ 教育実践

ア. モンテッソーリ教育の実践

モンテッソーリ教育切替3年目を迎え、学級編成を年少、年中、年長、3年齢混合クラス編成(4クラス)としました。幼児期ならではの体験を大切に、子ども同士の関わりを深める中で3つの心を育てています。

本年は、国費補助金を活用し、感覚教具、言語教育、数教育等の教具を整備することができました。

また、本年も、教職員の指導力を高めるため、引き続き戸田先生(国際ディプロマ資格所有)を特認教諭としてお願いし、園内研修(モンテッソーリ教育)を充実すると共に、教材開発に努め、登園後10時まで「自分で選び」「熱中し」「やりとげた喜びを感じられる」活動の時間としてチャレンジタイムを設け実践を積み重ねています。

⑤ 大学附属としての利点を活用した専門性のある教育内容と保育の実践

ア. リトミック(各年齢にあわせた内容で学期1回)

講師を本大学の善本准教授にお願いし、ピアノのリズムに合わせて身体で表現することで、リズム感や自分で判断する力や集中力を身につけながら音や身体表現を楽しんでいます。

園児たちは、音符カードを見て音の長さや強弱を身体で表現することもできるようになりました。

イ. 子育て相談（特別支援教育及び保護者対象の相談活動）

園児の実態に応じた指導を行うために、定期的に臨床心理士（李木教授）を招聘し園内研修を行ってきました。また、保護者の教育相談のために月1回相談日を開催し、保護者からたいへん喜ばれています。

ウ. 園舎のステンドグラス

毎年夏休みに、初等教育学科の美術専攻生が指導教授（若本非常勤講師）と共に来園し、たまごホールの広いガラス戸いっぱい楽しい絵を描いてくれます。園児たちは、1年間その絵を見ながら楽しく過ごしています。

⑥ 絵本、紙芝居の読み聞かせ

集中力、創造力を高めるために、各クラスで毎日絵本、紙芝居に親しんでいます。また、週1回は絵本の貸し出しも実施しており、沢山の絵本（約5000冊）に出会い、絵本が大好きな子どもたちが増えています。

⑦ 積木（WAKU-BLOCK）の取り組み

集中力や注意力、とりわけ、人間に深い精神的充実感をあたえる創造力を、楽しみながら開花させることをねらって積木（WAKU=BLOCK）に取り組んでいます。園児の実態に即して、みたく遊び（ごっこ遊び）やパターン遊び（模倣遊び）・認識探求遊び（パズル・ゲームなど）と発展的に取り組んできました。

⑧ 土曜参加日

学期に1回は土曜日を「土曜参加日」とし、保護者の方々に来園いただき、子どもたちと一緒にあそんでもらいます。我が子だけでなくいろんな子どもたちとの触れ合いを楽しんでもらいます。

⑨ 地域の方々との交流

ア. 地域の方々を指導者として招き、楽しく活動しています。園行事「秋まつり」や「花火大会」には、再度ご来園いただき指導を受けるとともに園児と一緒に楽しんでもらっています。

おじいちゃんやおばあちゃんやさしき・あたたかさ等を十分に感じられる交流です。伝承あそびのおもしろさを親子共々が体験しています。

- ・竹とんぼ名人・・・竹とんぼづくりやあそびかたの指導
- ・地域の女性会・・・盆踊りの指導や伝承遊びの指導

イ. ディアレスト可部の方々との交流

- ・毎月の誕生会への招待
- ・施設訪問（歌・合奏の披露と触れ合い遊び）

体験訪問を通して、お年寄りにも、いろいろな方がおられることを学んでいます。また、子どもたちが話したり、触れ合ったりすることで、お年寄りの方々が大変喜んでおられることを肌で感じ、いたわりの心や優しい心を持つことの大切さを学んでいます。

⑩ 子育て支援

ア. こころフレnds

入園前の親子を対象とし、園での遊びを体験して楽しんでいただきます。

1学期は、火・水・金週3回、曜日ごとにグループを作り各グループ週1回出席で実施しています。大変好評で2学期からは月曜日グループを増やし、入園受付の終わる10月末まで開催しました。11月からは、入園確定した幼児を対象に3月6日の入園体験前まで週1回のペースで実施し保護者からも大変好評でした。幼児たちも幼稚園生活に慣れ、4月の年度当初落ち着いた出発ができるのではと期待しています。

イ. 預かり保育の時間延長（保育終了後から6時まで）

長期休業中は、8:00～18:00に時間延長し、保護者からも喜ばれています。

⑪ 保護者のサークル活動

保護者同士の交流のために5つのサークルが活動しています。参加することで保護者同士の仲間意識もひろがり、子育ての喜びや楽しみ、そして苦しみ等お互いの情報を交換することができ、子育て支援の場にもなっています。

4. 国際交流

(1) 広島文教女子大学

協定校のアメリカ合衆国オハイオ州立ケント大学においては、夏期研修(2ヵ月)及び長期留学(8ヵ月)で学修した単位を、制度化された単位の読み換え基準に従い、卒業の単位として認定しています。

また、平成21年度から、新たにオーストラリアのクイーンズランド工科大学と夏期休暇中（日本では冬季）に実施される、5週間（2月上旬から3月中旬）の英語学習プログラムを修得できる協定を締結し、修得した単位は、4単位まで、本学の卒業必要単位として認定されます。

(2) 広島文教女子大学附属高等学校

修学旅行の1コースとして、海外ホームステイコースを設定しており、平成24年度は46名がカナダ、ブリティッシュコロンビア州ホワイトロック市で語学研修とホームステイ（約14日間）を経験しました。

留学生受け入れとしましては、今年度は豪州ナザレス・カトリック・カレッジの生徒19名、先生3名が来校されました。

本校生徒と交流し、日本文化に触れ、終日、日本の学校体験をしました。

5. 社会貢献・地域貢献活動

(1) 広島文教女子大学

広島市安佐北区唯一の大学であり、学園創設時の目的に「地域文化向上の一翼を担う」とあるように、創立当初より、地域社会と緊密な関係を持っていました。大学が行っている社会に対する物的・人的資源の提供は、次のようなものが挙げられます。

① 大学施設の開放

体育館、グラウンド、テニスコート、プール、弓道場を各種大会・行事等に教室、ホールを講習会、講演会、検定会場等に貸与し、有効に利用されています。

また、附属図書館は、学術・文化に関わる学習・調査及び研究を目的とする人を対象に公開しています。

② 授業開放、公開講座、講習等

授業開放については、教養教育科目の「人生論」を地域に開放しています。この授業は、各界、各層から様々な講師が、人生の生き方のヒントとなるような講演を行って多くの地域の方々が聴講しています。

公開講座は、30年間にわたって実施しており、平成24年度は20講座実施し、地域の人々に親しまれています。

講習等は、司書講習及び教員免許状更新講習を実施しています。

特に、司書講習は、中四国唯一の開催校となっており、毎年多くの受講生が参加しており、修了生も4,000名を超えています。

③ ソシオ学校

「ソシオ学校」とは地域社会と連動したより大きな教育システムを形成し、学園の教育活動がそのまま地域貢献となる取組であり、全学園目標の一つとして掲げられています。

各学科において、授業支援ボランティア、放課後グループ、食育啓発、子育て支援等様々な地域貢献行っています。

また、広島市安佐北区役所と、安佐北区内のまちづくり等に関する取組について、包括的な連携協力を行う「地域連携協力に関する協定書」を締結して、お互いの持つ人材・知識・情報などの資源を生かし、活発な活動を行って区民の方々から好評を得ています。

④ 「すずらんひろば高陽」開設

「すずらんひろば高陽」は、広島市地域子育て支援拠点事業として広島市からの補助金を受けて10月1日より安佐北区亀崎地区に開設した子育て広場です。子育て広場とは、おおむね3歳ごろまでのお子様をお持ちの方々を対象として子どもを遊ばせながら、周りの人たちとの会話を楽しみ、あるいはゆったりと時間を過ごす中で日頃のストレスを解消したり、子育てに関する悩みを軽減したりすることを意図した広場です。

平日 10 時から 15 時まで開設しており、昨年度は大人延べ 1,762 名、子ども延べ 2,095 名の計 3,857 名もの利用者がありました。月を追うごとに利用者数が増加しており、マスメディアにも多く取り上げられ、この半年で高陽地域の子育て支援拠点施設として定着し好評を得ています。

今後は、教育の場としての効果的な活用方法についても検討されています。

(2) 広島文教女子大学附属高等学校

「ソシオ学校」(教育活動そのものが地域貢献となる活動)を平成 24 年度も各クラブ単位で組み込みました。各クラブで生徒を中心に企画し、地域の小学校の行事で実験の企画、児童館での読み聞かせ、小学生対象に学習支援やボランティア演奏会など、各クラブでさまざまな取り組みを行いました。

4 月 15 日の創立記念日には全校生徒が出席し、2・3 年生は日頃お世話になっている地域に貢献するため、生徒会の主催で地域清掃活動を行いました。また、1 年生は、岡室 薫教諭による「建学の精神・学園訓」についての講話を聴き、武田学園に対する理解を深めました。

6. 学生支援サービス

学生の学習及び生活指導などを総合的に実施するための枠組みとして機能することを目的に、平成 18 年度には校務分掌の改変を行いました。平成 20 年度からは、入学前教育を含む学習支援として学習支援室を設置しました。

一方、本学の学生に対する経済的支援は、奨学金制度、学納金等優遇減免制度、留学生支援援助制度及び教育ローン利息補給制度があり、それぞれの目的に応じて有機的に機能させています。また、入学試験の成績優秀者を対象とする入学試験スカラシップ制度も整えており、平成 24 年度には一部の減免率を上げて対象枠を拡大する制度の拡充を行いました。

その他、学生の健康面、心理面、生活面のサポートは、保健室、学生相談室、学生サポート課が緊密な連携を取りつつ行っています。

7. キャンパス整備

(1) 広島文教女子大学

教育研究目的を達成するに十分な諸施設・設備を配置し、教職員により適切に維持、管理を行っています。ブックセンター(図書、文具等販売)や学生談話室なども整備し、学友会の要望から学内にコンビニエンスストアを設置しています。

教室環境では、少人数教育の充実を図るために、100 人以下の教室について、情報環境整備を計画しています。

平成 20 年度からの英語コミュニケーション総合学習施設(BECC)の開設に合わせて、1 号館絵画実習室移転改装工事により 8 号館を BECC 棟として完成し稼

動させました。

平成 21 年度は、8 号館 BECC 棟用として学生用クライアントパソコン 62 台の設備を導入しました。また 6 号館のプロジェクター関連機器を最新のものに更新しました。

また、文部科学省の平成 21 年度私立大学等研究設備整備費等補助金により、任天堂 DS を利用した e ラーニングの専用機器を導入しました。

平成 23 年度は、文部科学省の私立学校施設整備費補助金（防災機能等強化緊急特別推進事業）によりバリアフリー工事を実施し、本部棟、2 号館、4 号館、7 号館、8 号館各棟の出入口にスロープ及び手摺を取り付けることにより、段差の解消に努めました。

(2) 広島文教女子大学附属高校

総事業費14億7千万円で、平成22年12月着工のサッカーグラウンド整備工事が平成23年11月末に完成、縦105m、横68m、ナイター照明施設や観戦デッキが完備した人工芝のメーングラウンド、その他関連の施設としてクラブハウスやフットサル場、両翼70mのソフトボール場等も整備しました。

(3) 広島文教女子大学附属幼稚園

広島県の平成 22 年度幼児教育の質向上緊急環境整備事業費補助金により、モンテッソーリ教育用教具等の遊具等環境整備を実施しました。

8. キャリア形成と卒業生の進路・就職状況

(1) 広島文教女子大学

平成 25 年 3 月卒業生の就職率は 94.9%となりました。

キャリアセンター・就職課では、就職支援と指導の方針を次のとおりとし、学生の希望進路の実現に向けた支援を行いました。

① 規模大学の強みを活かした個別支援

一人ひとりに向き合う個別支援に重点を置き、きめ細かなサポートを徹底して行いました。個別面談は 3・4 年生の全員面談（前期/後期）の他、学年に関係なくキャリア・コンサルティングが受けられる体制を整えています。

② 女子大ならではのキャリア教育

女性のキャリア形成は結婚・出産などのライフイベントの影響を受けやすく、男性のキャリア形成と異なります。本学では、ライフイベントによって職業人生を中断した場合でも、再びキャリアを継続して形成していく力を育て、真の女性の自立をめざしたキャリア教育を 1 年生から展開しています。

また、保護者との連携の一環として平成 22 年度から一般企業就職希望者の保護者を対象に「保護者のための就職ガイダンス」を行ってきましたが、24 年度は保護者からの要望を受け、教職センターと連携して教職志望者の保護者対象のものも追加して実施しました。

その他、平成24年度は新たに卒業生の能力評価アンケートを行いました。これまで、本学の教育を受けた卒業生が社会にどう受け入れられているのか、社会人となった卒業生は在学中に何を身に着けたと自覚しているのか等の調査が実施されておらず、本学の教育は社会が求める能力を育成できているのか、またどんな能力の伸長をめざすべきかが明確とはいえませんでした。今回、卒業後3年以内の卒業生とその勤務先を対象に実施したアンケート結果は、今後の就職支援及びカリキュラム改革に活かしていく予定です。

(2) 広島文教女子大学附属高等学校

本校の卒業生の進路は、次の表に示すように、ほとんどが進学であります。その中でも、近年国公立大学へ進学希望・合格実績も増加しており、平成24年度は国公立大学にはA・Bコース合わせて13名が合格しました。

広島文教女子大学への進学志望者も多く、Bコースの約28%が進学しています。平成24年度卒業生も希望進路に向け最後まで努力しよく健闘しました。

本校では、進路の夢をまず大きく広げ、その実現を目指して日々の学校生活を頑張らせる指導を行っています。大学見学や大学模擬授業、附属幼稚園観察実習、一日看護体験実習、介護講習など、自分の夢を確認し、強くできる企画もしています。

また、4年制大学進学希望者には、大学入試センター試験を受験することを前提とした指導をしており、今年度卒業生の受験者は、162名中55名でした。

平成25年度入試 合格状況

国公立大学

学 校 名	学 部 名	学 科 名	合格者数
愛媛大学	教育	芸術文化課程/音楽文化コース	1
新見公立大学	看護	看護	1
鳥取環境大学	環境	環境	1
島根県立大学	総合政策	総合政策	1
尾道市立大学	芸術文化	日本文	1
		美術	1
県立広島大学	人間文化	国際文化	1
		健康科学	1
	保健福祉	コミュニケーション	1
広島市立大学	国際	国際	1
	情報科学		2
大分県立看護科学大学	看護	看護	1
国公立大学合格者数合計			13

私立大学 県外

学 校 名	学 部 名	学 科 名	合格者数
関西大学	法	政策創造	2
駒澤大学	経営	市場戦略	1
東海大学	文	広報メディア	1
東洋大学	国際地域	国際地域	1
国立音楽大学	音楽	演奏	1
国際医療福祉大学	保健医療	理学療法	1
尚美学園大学	総合政策	ライフマネジメント	1
女子栄養大学	栄養	実践栄養	1
京都女子大学	文	史学	1
京都橘大学	文	歴史	1
佛教大学	歴史	歴史	1
関西福祉科学大学	保健医療	リハビリテーション/作業療法学専攻	1
神戸国際大学	経済	都市環境・観光	2
神戸女子大学	文	史学	1
神戸親和女子大学	発達教育	児童教育	1
園田学園女子大学	人間健康	総合健康/健康スポーツコース	1
岡山理科大学	生物地球	生物地球	2
吉備国際大学	社会	スポーツ社会	2
環太平洋大学	次世代教育	こども発達	1
	体育	健康科学	2
徳山大学	経済	ビジネス戦略/スポーツマネジメントコース	2
姫路獨協大学	外国語	外国語	1
県外私立大学合格者数合計			28

私立大学 県内

学 校 名	学 部 名	学 科 名	合格者数
広島文教女子大学	人間科学	グローバルコミュニケーション	9
		初等教育	15
		人間福祉	10
		心理	10
		人間栄養	10

	小 計		54
広島文化学園大学	学芸	音楽	1
	社会情報	社会情報	1
		健康福祉	1
	看護	看護	2
比治山大学	現代文化	こども発達教育	1
		マスコミュニケーション	1
広島経済大学	経済	経営	1
		ビジネス情報	1
広島工業大学	環境	地球環境	1
	生命	食品生命科学	1
広島修道大学	人文	英語英文	1
		人間関係／社会学専攻	1
	法	国際政治	8
		法律	1
広島女学院大学	商	商	1
	国際教養	国際教養	3
	人間生活	管理栄養	2
広島国際学院大学	情報デザイン	情報デザイン	2
福山大学	生命工	生命工	1
安田女子大学	文	英語英米文	5
		書道	1
	心理	心理	3
	現代ビジネス	現代ビジネス	2
	薬	薬	3
	家政	生活デザイン	2
管理栄養		2	
広島国際大学	薬	薬	1
	医療経営	医療経営	1
	総合リハビリテーション	リハビリテーション/理学療法学専攻	2
		リハビリテーション/作業療法学専攻	1
	医療福祉	医療福祉	1
	看護	看護	3
日赤広島看護大学	看護	看護	3
広島都市学園大学	健康科学	看護	1
		理学療法	1

県内私立大学合格者数合計	117
--------------	-----

私立短期大学

学 校 名	学 科 名	合格者数
川崎医療短期大学	看護科	1
鈴峯女子短期大学	食物栄養	3
比治山大学短期大学部	総合生活デザイン学科	1
	美術科	2
広島文化学園大学短期大学	保育	1
安田女子短期大学	秘書	1
私立短期大学合格者数合計		9

専門学校

学 校 名	専 攻 名	進学者数
広島市立看護専門学校		3
呉共済病院看護専門学校		1
呉医療センター附属 呉看護学校		1
福山医師会看護専門学校	第一看護	1
三原看護高等専修学校		1
広島歯科技術専門学校		1
広島福祉専門学校	介護福祉科	1
IGL医療専門学校	柔整	1
	口腔保険	1
広島YMCA専門学校	医療事務科	4
	ホスピタリティ科	2
福祉リソー広島専門学校		1
トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校	臨床工	1
総合学園ヒューマンアカデミー	マンガカレッジ	2
穴吹デザイン専門学校	CG・ゲーム	1
	インテリアデザイン	1
広島県理容美容専門学校	美容科	1
広島美容専門学校	美容科	1
広島製菓専門学校	洋菓子科	2
広島ビジネス専門学校	キャリアビジネス科	1
広島情報ビジネス専門学校	総合ビジネス科	4

広島アニマルケア専門学校	動物管理	1
広島リゾート&スポーツ専門学校	健康スポーツ科	1
大阪デザイナー専門学校	イラストレーション	1
広島県立農業大学校		1
専門学校合格者数合計		36

就職

会社等名		就職者数
自衛隊		2
広島常光福祉会		1
ウェストフードサービス		1
就職者数合計		4

Ⅲ.財務の概要 (平成24年度決算状況)

1. 財産目録

財産目録については、次表のとおりです。

財産目録(平成25年3月31日現在)			
I 資産総額		10,963,724,960 円	
内 基本財産		8,418,110,850 円	
運用財産		2,545,614,110 円	
収益事業用財産		－ 円	
II 負債総額		1,122,833,377 円	
III 正味財産		9,840,891,583 円	
区 分		金 額	
資産額			
1 基本財産			
土地	145,331㎡	2,757,565,240 円	
建物	43,711㎡	3,867,730,813 円	
図書	243,290冊	1,087,328,042 円	
教具・校具・備品	17,933点	176,831,900 円	
その他		528,654,855 円	
2 運用財産			
現金預金		1,914,934,261 円	
その他		630,679,849 円	
3 収益事業用財産			
		－ 円	
資産総額		10,963,724,960 円	
負債額			
1 固定負債			
長期借入金		148,230,000 円	
退職給与引当金		408,612,689 円	
2 流動負債			
短期借入金		10,020,000 円	
未払金		25,837,838 円	
前受金		500,041,500 円	
預り金		30,091,350 円	
負債総額		1,122,833,377 円	
正味財産(資産総額－負債総額)		9,840,891,583 円	

2. 貸借対照表

貸借対照表については、次表のとおりです。

資産の部合計は、10,963百万円、前年比104百万円(0.9%)減少、その内訳は、有形固定資産が123百万円減少、その他の固定資産も3百万円減少、流動資産が18百万円増加となりました。負債の部合計は、1,122百万円、前年比23百万円(2.1%)増加、となりました。基本金の部合計は15,667百万円、前年比160百万円(1.0%)増加となりました。

貸借対照表

平成25年 3月31日

(単位 円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	(9,008,765,660)	(9,132,077,505)	(△ 123,311,845)
有形固定資産	< 8,547,291,382 >	< 8,695,140,858 >	< △ 147,849,476 >
土地	2,886,745,772	2,886,745,772	0
建物	3,867,730,813	4,027,645,289	△ 159,914,476
構築物	518,691,253	534,660,190	△ 15,968,937
教育研究用機器備品	164,566,938	139,675,285	24,891,653
その他の機器備品	12,264,962	13,854,991	△ 1,590,029
図書	1,087,328,042	1,079,274,531	8,053,511
車両	9,963,602	13,284,800	△ 3,321,198
その他の固定資産	< 461,474,278 >	< 436,936,647 >	< 24,537,631 >
電話加入権	1,828,300	1,828,300	0
施設利用権	5,057,840	5,532,667	△ 474,827
出資金	664,400	650,300	14,100
ソフトウェア	24,922,958	0	24,922,958
有価証券	154,690,000	154,690,000	0
長期貸付金	2,618,000	2,698,000	△ 80,000
退職給与引当特定預金	220,000,000	220,000,000	0
第3号基本金引当特定預金	51,500,000	51,500,000	0
敷金	155,400	0	155,400
預託金	37,380	37,380	0
流動資産	(1,954,959,300)	(1,936,614,334)	(△ 18,344,966)
現金預金	1,914,934,261	1,879,090,183	35,844,078
未収入金	32,887,125	51,253,426	△ 18,366,301
短期貸付金	300,000	290,000	10,000
貯蔵品	3,737,274	2,637,899	1,099,375
仮払金	222,000	499,679	△ 277,679
前払金	2,878,640	2,843,147	35,493
資 産 の 部 合 計	10,963,724,960	11,068,691,839	△ 104,966,879

(単位 円)

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	(556,842,689)	(592,471,162)	(△ 35,628,473)
長期借入金	148,230,000	158,250,000	△ 10,020,000
退職給与引当金	408,612,689	434,221,162	△ 25,608,473
流動負債	(565,990,688)	(506,386,670)	(△ 59,604,018)
短期借入金	10,020,000	10,020,000	0
未払金	25,837,838	55,632,902	△ 29,795,064
前受金	500,041,500	416,693,500	83,348,000
預り金	30,091,350	24,040,268	6,051,082
負債の部合計	1,122,833,377	1,098,857,832	23,975,545

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	15,429,276,879	15,268,394,430	160,882,449
第3号基本金	51,500,000	51,500,000	0
第4号基本金	187,000,000	187,000,000	0
基本金の部合計	15,667,776,879	15,506,894,430	160,882,449

消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	5,826,885,296	5,537,060,423	289,824,873
消費収支差額の部合計	△ 5,826,885,296	△ 5,537,060,423	△ 289,824,873

科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	10,963,724,960	11,068,691,839	△ 104,966,879

(注記)

1. 減価償却額の累計額の合計額 6,853,872,399 円
2. 徴収不能引当金の合計額 960,000 円
3. 翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 3,696,000 円

3. 収支計算書

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、次表のとおりです。

資金収支計算書

平成24年 4月 1日 から
平成25年 3月 31日 まで

(単位 円)

取 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	(1,605,991,249)	(1,605,633,607)	(357,642)
授業料収入	1,059,178,350	1,059,110,900	67,450
入学金収入	124,020,000	124,220,000	△ 200,000
入学手続金収入	33,480,000	33,760,000	△ 280,000
実験実習料収入	25,442,899	26,842,707	△ 1,399,808
施設設備資金収入	363,870,000	361,700,000	2,170,000
手数料収入	(30,260,000)	(34,238,330)	(△ 3,978,330)
入学検定料収入	26,210,000	30,515,000	△ 4,305,000
試験料収入	450,000	397,000	53,000
証明手数料収入	800,000	692,300	107,700
大学入試センター試験実施手数料収入	2,800,000	2,634,030	165,970
寄付金収入	(30,140,000)	(2,360,009)	(27,779,991)
特別寄付金収入	30,000,000	795,009	29,204,991
一般寄付金収入	140,000	1,565,000	△ 1,425,000
補助金収入	(456,000,000)	(456,862,138)	(△ 862,138)
国庫補助金収入	245,000,000	225,287,000	19,713,000
地方公共団体補助金収入	211,000,000	231,575,138	△ 20,575,138
資産運用収入	(8,599,000)	(9,612,049)	(△ 1,013,049)
受取利息・配当金収入	8,294,000	8,133,044	160,956
施設設備利用料収入	155,000	731,295	△ 576,295
地代収入	150,000	747,710	△ 597,710
事業収入	(134,077,600)	(125,526,375)	(8,551,225)
補助活動収入	118,677,600	113,837,375	4,840,225
受託事業収入	5,000,000	900,000	4,100,000
公開講座収入	9,000,000	9,583,000	△ 583,000
免許状更新講習料収入	1,400,000	1,206,000	194,000
雑収入	(18,580,000)	(16,043,320)	(2,536,680)
私立大学退職金財団交付金収入	15,000,000	7,445,159	7,554,841
広島県私学振興財団等交付金収入	342,000	304,500	37,500
研究関連収入	200,000	480,000	△ 280,000
その他の雑収入	3,038,000	7,813,661	△ 4,775,661
借入金等収入	(110,000,000)	(110,000,000)	(0)
短期借入金収入	110,000,000	110,000,000	0
前受金収入	(505,220,500)	(500,041,500)	(5,179,000)
授業料前受金収入	221,869,000	235,831,500	△ 13,962,500
入学金前受金収入	150,830,000	135,145,000	15,685,000
入学手続金前受金収入	40,700,000	34,860,000	5,840,000
施設設備資金前受金収入	84,745,000	88,160,000	△ 3,415,000
補助活動前受金収入	6,900,000	5,940,000	960,000
その他の雑収入前受金収入	176,500	105,000	71,500
その他の収入	(57,603,426)	(57,472,187)	(131,239)
前期末未収入金収入	51,253,426	50,773,426	480,000
長期貸付金回収収入	60,000	80,000	△ 20,000
短期貸付金回収収入	290,000	290,000	0
預り金受入収入	5,500,000	6,051,082	△ 551,082
仮払金回収収入	500,000	277,679	222,321
資金収入調整勘定	(△ 506,248,847)	(△ 450,060,625)	(△ 56,188,222)
期末未収入金	△ 89,555,347	△ 33,367,125	△ 56,188,222
前期末前受金	△ 416,693,500	△ 416,693,500	0
前年度繰越支払資金	(1,879,090,183)	(1,879,090,183)	
取 入 の 部 合 計	4,329,313,111	4,346,819,073	△ 17,505,962

(単位 円)

支 出 の 部	予 算	決 算	差 異
科 目			
人件費支出	(1,500,867,304)	(1,477,360,418)	(23,506,886)
教員人件費支出	1,149,786,729	1,133,469,372	16,317,357
職員人件費支出	302,860,702	313,643,632	△ 10,782,930
役員報酬支出	30,219,873	21,368,205	8,851,668
退職金支出	18,000,000	8,879,209	9,120,791
教育研究経費支出	(485,526,000)	(445,568,257)	(39,957,743)
旅費交通費支出	65,234,000	68,538,271	△ 3,304,271
福利費支出	204,000	222,450	△ 18,450
消耗品費支出	78,290,000	75,472,055	2,817,945
燃料費支出	1,180,000	877,184	302,816
印刷製本費支出	20,930,000	16,672,689	4,257,311
光熱水費支出	74,020,000	70,989,927	3,030,073
修繕費支出	39,460,000	39,770,871	△ 310,871
通信運搬費支出	12,190,000	10,456,655	1,733,345
保険料支出	5,540,000	4,853,092	686,908
公租公課支出	974,000	509,598	464,402
負担金支出	34,300,000	28,936,482	5,363,518
会議費支出	1,444,000	440,318	1,003,682
奨学費支出	80,000,000	75,997,123	4,002,877
保健衛生費支出	17,180,000	16,555,916	624,084
貸借料支出	34,410,000	18,999,653	15,410,347
講師謝礼支出	5,910,000	4,315,449	1,594,551
海外研修費支出	3,190,000	2,816,874	373,126
雑費支出	11,070,000	9,143,650	1,926,350
管理経費支出	(255,005,310)	(221,760,877)	(33,244,433)
報償費支出	10,731,200	9,331,581	1,399,619
旅費交通費支出	10,848,000	9,828,184	1,019,816
交際費支出	1,086,200	1,142,933	△ 56,733
福利費支出	3,428,000	2,963,197	464,803
消耗品費支出	14,603,000	13,184,651	1,418,349
燃料費支出	322,000	244,708	77,292
印刷製本費支出	24,840,000	20,615,472	4,224,528
光熱水費支出	752,000	930,469	△ 178,469
修繕費支出	2,258,000	889,309	1,368,691
通信運搬費支出	5,810,000	5,718,187	91,813
保険料支出	377,000	175,868	201,132
公租公課支出	7,176,000	2,466,402	4,709,598
負担金支出	27,415,000	19,170,936	8,244,064
会議費支出	94,000	31,977	62,023
広告費支出	57,053,800	52,199,175	4,854,625
保健衛生費支出	1,077,000	106,797	970,203
貸借料支出	10,767,000	7,691,319	3,075,681
講師謝礼支出	134,000	66,666	67,334
雑費支出	2,639,110	1,459,882	1,179,228
補助活動仕入支出	72,259,000	72,220,164	38,836
私立大学等経常費補助金返還金支出	1,335,000	1,323,000	12,000
借入金等利息支出	(2,737,637)	(2,719,407)	(18,230)
借入金利息支出	2,737,637	2,719,407	18,230
借入金等返済支出	(120,020,000)	(120,020,000)	(0)
借入金返済支出	120,020,000	120,020,000	0
施設関係支出	(36,682,000)	(35,195,486)	(1,486,514)
建物支出	5,082,000	6,238,386	△ 1,156,386
構築物支出	31,600,000	28,957,100	2,642,900
設備関係支出	(145,241,525)	(99,115,710)	(46,125,815)
教育研究用機器備品支出	104,785,900	63,739,524	41,046,376
その他の機器備品支出	2,200,000	1,846,529	353,471
図書支出	12,100,225	8,451,299	3,648,926
ソフトウェア支出	26,000,000	24,922,958	1,077,042
敷金支出	155,400	155,400	0
資産運用支出	(15,000)	(14,100)	(900)

(単位 円)

科 目	予 算	決 算	差 異
出資金支出	15,000	14,100	900
その他の支出	(76,854,561)	(55,115,542)	(21,739,019)
短期貸付金支払支出	300,000	300,000	0
前期末未払金支払支出	55,632,902	51,936,902	3,696,000
前払金支払支出	20,921,659	2,878,640	18,043,019
〔予備費〕	(25,000,000)		25,000,000
資金支出調整勘定	(△ 42,843,147)	(△ 24,984,985)	(△ 17,858,162)
期末未払金	△ 40,000,000	△ 22,141,838	△ 17,858,162
前期末前払金	△ 2,843,147	△ 2,843,147	0
次年度繰越支払資金	(1,724,206,921)	(1,914,934,261)	(△ 190,727,340)
支出の部合計	4,329,313,111	4,346,819,073	△ 17,505,962

(2) 消費収支計算書

消費収支計算書は、次表のとおりです。

消費収支計算書

(単位 円)

消費収入の部			
科目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金	(1,605,991,249)	(1,605,633,607)	(357,642)
授業料	1,059,178,350	1,059,110,900	67,450
入学金	124,020,000	124,220,000	△ 200,000
入学手続金	33,480,000	33,760,000	△ 280,000
実験実習料	25,442,899	26,842,707	△ 1,399,808
施設設備資金	363,870,000	361,700,000	2,170,000
手数料	(30,260,000)	(34,238,330)	(△ 3,978,330)
入学検定料	26,210,000	30,515,000	△ 4,305,000
試験料	450,000	397,000	53,000
証明手数料	800,000	692,300	107,700
大学入試センター試験実施手数料	2,800,000	2,634,030	165,970
寄付金	(32,440,000)	(4,071,794)	(△ 28,368,206)
特別寄付金	30,000,000	795,009	29,204,991
一般寄付金	140,000	1,565,000	△ 1,425,000
現物寄付金	2,300,000	1,711,785	588,215
補助金	(456,000,000)	(456,862,138)	(△ 862,138)
国庫補助金	245,000,000	225,287,000	19,713,000
地方公共団体補助金	211,000,000	231,575,138	△ 20,575,138
資産運用収入	(8,599,000)	(9,612,049)	(△ 1,013,049)
受取利息・配当金	8,294,000	8,133,044	160,956
施設設備利用料	155,000	731,295	△ 576,295
地代	150,000	747,710	△ 597,710
事業収入	(134,077,600)	(125,526,375)	(△ 8,551,225)
補助活動収入	118,677,600	113,837,375	4,840,225
受託事業収入	5,000,000	900,000	4,100,000
公開講座収入	9,000,000	9,583,000	△ 583,000
免許状更新講習料収入	1,400,000	1,206,000	194,000
雑収入	(19,580,000)	(36,404,543)	(△ 16,824,543)
私立大学退職金財団交付金	15,000,000	7,445,159	7,554,841
広島県私学振興財団等交付金	342,000	304,500	37,500
研究関連収入	200,000	480,000	△ 280,000
退職給与引当金戻入額	1,000,000	20,361,223	△ 19,361,223
その他の雑収入	3,038,000	7,813,661	△ 4,775,661
帰属収入合計	2,286,947,849	2,272,348,836	14,599,013
基本金組入額合計	△ 214,716,415	△ 160,882,449	△ 53,833,966
消費収入の部合計	2,072,231,434	2,111,466,387	△ 39,234,953

(単位 円)

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	(1,530,345,304)	(1,472,113,168)	(58,232,136)
教員人件費	1,149,786,729	1,133,469,372	16,317,357
職員人件費	302,860,702	313,643,632	△ 10,782,930
役員報酬	30,219,873	21,368,205	8,851,668
退職金	18,000,000	3,631,959	14,368,041
退職給与引当金繰入額	29,478,000	0	29,478,000
教育研究経費	(721,003,095)	(684,433,405)	(36,569,690)
旅費交通費	65,234,000	68,538,271	△ 3,304,271
福利費	204,000	222,450	△ 18,450
消耗品費	78,290,000	75,622,807	2,667,193
燃料費	1,180,000	877,184	302,816
印刷製本費	20,930,000	16,672,689	4,257,311
光熱水費	74,020,000	70,989,927	3,030,073
修繕費	39,460,000	39,770,871	△ 310,871
通信運搬費	12,190,000	9,987,364	2,202,636
保険料	5,540,000	4,853,092	686,908
公租公課	974,000	509,598	464,402
負担金	34,300,000	28,936,482	5,363,518
会議費	1,444,000	440,318	1,003,682
奨学費	80,000,000	75,997,123	4,002,877
保健衛生費	17,180,000	16,555,916	624,084
賃借料	34,410,000	18,999,653	15,410,347
講師謝礼	5,910,000	4,315,449	1,594,551
海外研修費	3,190,000	2,816,874	373,126
減価償却額	235,477,095	239,183,687	△ 3,706,592
雑費	11,070,000	9,143,650	1,926,350
管理経費	(274,155,912)	(239,914,094)	(34,241,818)
報償費	10,731,200	9,331,581	1,399,619
旅費交通費	10,848,000	9,828,184	1,019,816
交際費	1,086,200	1,142,933	△ 56,733
福利費	3,428,000	2,963,197	464,803
消耗品費	14,603,000	13,109,512	1,493,488
燃料費	322,000	244,708	77,292
印刷製本費	24,840,000	20,615,472	4,224,528
光熱水費	752,000	930,469	△ 178,469
修繕費	2,258,000	889,309	1,368,691
通信運搬費	5,810,000	5,562,525	247,475
保険料	377,000	175,868	201,132
公租公課	7,176,000	2,462,702	4,713,298
負担金	27,415,000	19,170,936	8,244,064
会議費	94,000	31,977	62,023
広告費	57,053,800	51,388,169	5,665,631
保健衛生費	1,077,000	106,797	970,203
賃借料	10,767,000	7,691,319	3,075,681
講師謝礼	134,000	66,666	67,334
雑費	2,639,110	1,459,882	1,179,228
補助活動収入原価	72,259,000	72,695,745	△ 436,745
減価償却額	19,150,602	18,723,143	427,459
私立大学等経常費補助金返還金	1,335,000	1,323,000	12,000
借入金等利息	(2,737,637)	(2,719,407)	(18,230)
借入金利息	2,737,637	2,719,407	18,230
資産処分差額	(2,000,000)	(1,151,186)	(848,814)
動産除却差額	2,000,000	1,151,186	848,814
徴収不能引当金繰入額	(960,000)	(960,000)	(0)
〔予備費〕	25,000,000		25,000,000
消費支出の部合計	2,556,201,948	2,401,291,260	154,910,688
当年度消費支出超過額	483,970,514	289,824,873	
前年度繰越消費支出超過額	5,537,060,423	5,537,060,423	
翌年度繰越消費支出超過額	6,021,030,937	5,826,885,296	

(3) 消費収支経年比較表

(百万円)

科 目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比
学生生徒等納付金	1,595	1,536	1,508	1,614	1,606	△8
手数料	29	29	32	31	34	3
寄付金	6	3	17	5	4	△1
補助金	489	476	480	470	457	△13
資産運用収入	16	12	10	9	10	1
資産売却差額	0	0	0	0	0	0
事業収入	123	127	121	127	126	△1
雑収入	67	151	106	51	37	△14
帰属収入計	2,325	2,334	2,274	2,307	2,272	△35
基本金組入額計	△862	△85	△285	△564	△161	403
消費収入の部計	1,463	2,249	1,989	1,743	2,111	368
人件費	1,433	1,357	1,493	1,356	1,472	116
教育研究経費	850	831	700	638	684	46
管理経費	235	231	278	238	240	2
借入金等利息	2	4	3	3	3	0
資産処分差額	0	1	4	1	1	0
徴収不能額	0	0	1	1	1	0
消費支出の部計	2,520	2,424	2,479	2,237	2,401	164
消費支出超過額	1,057	175	490	494	290	△204

(4) 消費収支計算書関係比率

(%)

	比 率		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	61.60%	58.10%	65.60%	58.77%	64.78%
2	人件費依存率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	89.80%	88.30%	99.00%	84.02%	91.69%
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰 属 収 入}}$	36.50%	35.60%	30.80%	27.66%	30.12%
4	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	10.10%	9.90%	12.20%	10.30%	10.55%
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.10%	0.20%	0.20%	0.13%	0.12%
6	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	108.40%	103.90%	109.00%	96.95%	105.67%
7	消費収支比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{消 費 収 入}}$	172.20%	107.80%	124.60%	128.32%	113.72%
8	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	68.60%	65.80%	66.30%	69.95%	70.66%
9	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.30%	0.10%	0.80%	0.24%	0.18%
10	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	21.00%	20.40%	21.10%	20.39%	20.11%


監事監査報告書

平成 25 年 5 月 24 日

学校法人武田学園
理事会 様
評議員会 様

学校法人武田学園

監事

友廣和博 

監事

久保田宏規 

私たちは、学校法人武田学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人武田学園寄附行為第 16 条の規定に基づき、学校法人武田学園の平成 24 年度(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)の業務並びに財産の状況について監査した。

私たちは監査に当たり、理事会及び評議員に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決済書類を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど、必要と思われる監査手続きを実施した。

監査の結果、学校法人武田学園の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類、すなわち資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表(固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。)並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、その収支及び財産の状況を正しく示しており、業務または財産に関し不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

以上